

実践事例にみる地域と連携した学習機会創出のヒント

新学習指導要領では、予測困難な時代を生き抜く力をもった生徒を育成するため、社会に開かれた教育課程のもと、社会と連携・協働した教育活動の充実が求められています。地域と関わりながら身近な課題の解決に取り組むことは、生徒の社会参画意識を高め、社会を形成する一員としての自覚をもたせることにつながります。そこで、特色ある取組について調査し、高校生が地域活動に取り組みやすい環境を整える方策をまとめましたので、各校で地域活動に取り組む際に活用してください。

「高校生視点による地域活動」とちぎ高校生蔵部(栃木市)

【概要】 学校の垣根を越えてボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の間だけでなく大人とも語り合いながら、自主的な活動を展開し、様々な課題解決や栃木市のにぎわいの創出に寄与することを目的に活動している。また、地域イベントにボランティアとして参加したり、イベントブースの出展をしたりしている。

活動の成果
 ◎様々な地域課題の解決に向けて、自主的に取り組むことができている。
 ◎栃木市にとっても、包括連携協定を結んだ市内高等学校と連携の機会が増加した。

◇高校の教員に活動趣旨を理解してもらうことや、学校側の疑問への丁寧な説明をすることで、参加者を確保してもらっている。

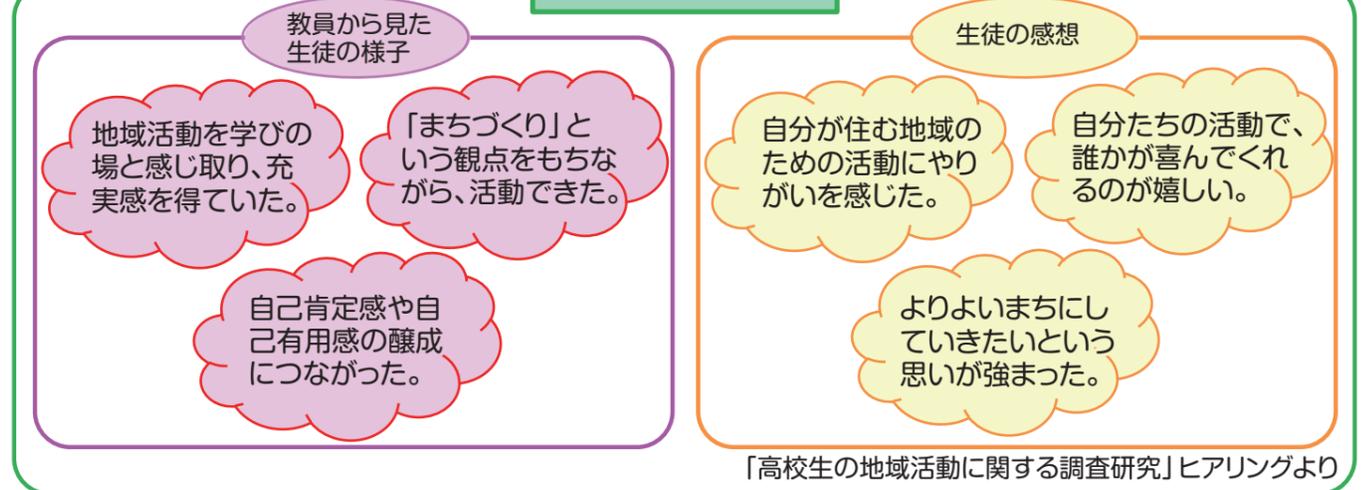
うまくいっている要因
 ◇地域活動に取り組んでいる大人と関わることにより、様々な課題解決に向けた取組を可能にしている。
 ◇即効性のある取組ではないが、長期的に小さな活動を続けている。
 ◇ボランティアサークル「とちぎ高校生蔵部OBOG会」を設立し、引き続きボランティアやまちづくりに関わりたい高校生の受け皿となっている。



栃木市役所における蔵部会議の様子

生徒の声
 ☆これから社会に出ていったときの考え方に関わる、多くのことを知ることができるから、継続して参加しています。
 ☆文化祭のようなイベントを企画することは楽しく、大人とつながれる貴重な機会になっています。

地域活動の効果



「高校生の地域活動に関する調査研究」ヒアリングより

「まちづくりセミナーの成果を生かして」YAITA ALL DIRECTIONS(矢板市)

【概要】 第14回矢板武塾終了後、参加者のうち9名が団体設立を目指し活動を始めた。高校生が勉強したり、集まったりできる場所(通称:高校生カフェ)の開設が大きな目標で、高校生視点でまちなかのにぎわいをつくり出すための企画をしている。おすすめスポットを紹介する「まちあるきマップ」は、メンバーが実際に店舗取材して作成した。

活動の成果
 ◎高校生が、市内のお店に興味をもち訪問するようになった。
 ◎単年度の目的を明確にしなが、活動に取り組むことができている。

うまくいっている要因
 ◇市の担当者が事業者とのやりとりをすることで、生徒が活動に専念できている。
 ◇生徒主体で考えられるように、担当者が情報を提供する。



まちあるきマップ

生徒の声
 ☆形のないものを一からつくることの大変さを知るとともに、地域という大きなコミュニティで何かを成し遂げるためのつながりが得られました。
 ☆地域活動をとおして、地域コミュニティのあたたかさを実感し、地元愛が生まれました。

事例にみる効果的な方策

校内体制の整備

学校の取組

- ・地域活動に関する意識向上の研修の実施
- ・教科や校務を越えた組織づくり
- ・地域連携教員と活動を担当する教員との情報共有、協力・相談体制づくり

成果

- 全校での目的や目標の共有・明確化
- 全校での組織的な取組による活動の充実
- 担当する教員間の目標共有

行政・地域との連携体制の構築

学校の取組

- ・地域連携教員等による連携窓口の設置
- ・地域の人的・物的資源の情報収集
- ・学校から地域への連携活動の参加・協力の呼びかけ
- ・市町の生涯学習やまちづくり担当課への働きかけ

地域の取組

- ・地域と学校をつなぐ機関・団体等の存在

成果

- 活動の活性化・継続化
- 新たなアイデアの発見・活動の開発

多様な大人と接する機会づくり

学校の取組

- ・活動への参加を促すための教員による言葉かけ・雰囲気づくり

地域の取組

- ・地域でつくる高校生の活動機会

成果

- 地域の一員としての意識向上
- 地域活動への主体的参加

栃木県総合教育センター
生涯学習部

電話：028-665-7206
 Fax：028-665-7219
 E-mail：skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp



令和3(2021)年3月

・詳しくは、Webサイト「とちぎレインボーネット」を御覧ください!
 URL <https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>
 ・学校と地域のつながりづくりなど、御相談は上記まで御連絡ください。

「市役所と連携した課題解決学習プログラム」鹿沼高等学校

【概要】市役所の全面的な協力のもと、平成28年度から「栃木県立鹿沼高等学校未来発展プラン」の一環でスタートしたクリエイティブ・フォーラム（鹿高型課題解決学習プログラム）を、探究活動として行っている。課題の発見とその解決に向けて、主体的・対話的で深い学びの実践を図り、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指している。

活動の成果

- ◎地域の中で多くの人と関わり、自ら何ができるのかを考えて行動するようになっている。
- ◎総合的な探究の時間で、自分たちの研究について発表（プレゼンテーション）し、地域課題解決に向けた提案ができた。

うまくいっている要因

- ◇鹿沼市教委生涯学習課との連携により、対外的な調整を行っている。
- ◇白鷺大学（高大連携協定）の協力により、プレゼンテーション力の向上のため、大学生が指導している。

環境整備のポイント

- ☆学年全体として取り組める体制をつくる。
- ☆地域連携教員も担当教員と情報を共有し、相談できる体制をつくる。
- ☆地域での活動情報を伝え、自主的に活動できる時間を確保できるように調整する。



クリエイティブ・ノート

「多様な主体と連携した、学校×地域連携プロジェクト」日光明峰高等学校

【概要】日光市社会福祉協議会をコーディネーターに、行政（日光市）、自治会（周辺4自治会）、小学校（安良沢小学校）、中学校（日光中学校）、民間団体（清風塾）、社団法人（交通安全協会）、二社一寺、NPO 団体（足尾に緑を育てる会）等と連携し、「学校×地域連携プロジェクト」として活動している。

活動の成果

- ◎地域のいろいろな人と話をする中で「まちづくり」の視点ももてた。
- ◎教育活動への理解を深められ、地域の住民から声をかけてもらえる機会が増えた。

うまくいっている要因

- ◇多くの生徒が活動に参加できる全体計画を作成し、授業として地域活動を行っている。
- ◇学校運営協議会で意見や協力を募る等、地域との関係を密にしている。

環境整備のポイント

- ☆授業等での活動において、全生徒が地域連携活動へ参加できるようにする。
- ☆あらゆる年代や業種に幅を広げて連携し地域活動を展開する。
- ☆教育的効果や地域への貢献を踏まえた計画・立案をする。



日光の伝統料理

「地元農産品での地域おこし」小山北桜高等学校

【概要】「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」の協賛会員となったことを機に、総合ビジネス科にかんぴょうの情報誌作成とPR活動への参加依頼の話があり、協力することになった。総合ビジネス科の生徒で構成されたビジネス研究部を立ち上げ、商業に関する課題を設定し、調査及び研究活動を行うことを目的に活動している。

活動の成果

- ◎コミュニケーション能力が高まった。
- ◎積極性や問題解決能力を身に付けることができた。

うまくいっている要因

- ◇キャリア教育の中で、地域で必要とされる人材や自分の将来を具体的にイメージしてから活動に取り組んでいる。
- ◇自分と自分が住んでいる地域を豊かにすることや、自分が成長できることをイメージしながら、地域貢献活動に取り組んでいる。

環境整備のポイント

- ☆教育課程に、地域活動を組み入れるようにする。
- ☆学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有する。
- ☆放課後や土曜日等に、地域の人的・物的資源を活用し活動している。



かんぴょうの実入りアイスの販売

「伝統産業の木工をテーマにNPO法人と連携した取組」鹿沼東高等学校

【概要】地域に関わる探究活動を模索する中、鹿沼市教委生涯学習課からの紹介で、特定非営利法人「かえる舎」との連携が始まった。3年間の「総合的な探究の時間」で「地域の未来を自ら拓くことのできる人材の育成」を目的とし、「幼稚園に地元の素材を使った遊具をプレゼントする。」という具体的な目標を設定して活動した。

活動の成果

- ◎生徒たちに目的を意識させしっかりと役割を与えることで、自分たちで考えて行動できた。
- ◎伝統工業の継承や活性化に関わる人々と接することで、「世の中に貢献すること」や「活動に価値を見出すこと」について、生徒なりに感じる事ができた。
- ◎地域での活動は生の体験にあふれ、現場ならではの情報と出会うことができた。

うまくいっている要因

- ◇鹿沼市教委生涯学習課と連携することで、新たな情報やアイデアを提供してもらい、伝統産業の木工をテーマにした多様な地域活動の実践につながっている。
- ◇鹿沼市をとおすことで、外部団体との連携がスムーズに進んでいる。

環境整備のポイント

- ☆学校の中に核となる教員を置き、地域活動の趣旨を教員が理解し、互いに協力し合う。
- ☆市役所等行政との密な連携を図る。
- ☆地域活動の中から芽生える、自主性や想像力（創造力）が大切であることを教員全体で理解する。



地元素材を使った積み木のプレゼント

「工業高校の専門性を生かした取組」栃木工業高等学校

【概要】「県立高校未来創造推進事業」の地域資源活用プロジェクトの一つであった「テクニカル・リペア活動」を引き継ぎ、平成28年度より工業高校の専門性を生かし、テクノボランティアの名称で活動を継続している。また、「高校生未来の職業人育成事業」として、栃木市内の小学生に技術指導を行い、世代間交流を含むキャリア教育を行っている。

活動の成果

- ◎自己肯定感や自己有用感の醸成ができ、生徒自身の大きな成長につながった。
- ◎福祉活動では、障害のある方々の支援に自分たちの技術が役に立つことから、生徒の関心度が高く、持続可能な地域活動となっている。
- ◎ESD（持続可能な開発のための教育）の実践につながった。

うまくいっている要因

- ◇連携活動を希望する小・中学校等があることで、持続可能な地域活動ができている。
- ◇活動範囲を栃木市内とすることで、無理なく活動を続けることができています。
- ◇栃木市教委生涯学習課の支援により、生徒の活動の場を提供できている。

環境整備のポイント

- ☆一部教員だけの業務にならないよう、多くの教員で活動する。
- ☆学校全体で取組内容を把握し、より組織だった業務運営を行う。
- ☆魅力ある学校づくりと地域連携の一体化を図る。



うすまの竹明かり